

令和3年11月26日

報道各位

一般社団法人
全国公私病院連盟
会長 邊見公雄

照会先：地域医療・介護研究会 JAPAN
TEL 075-366-6333
FAX 075-366-3334
携帯 090-7106-2428

全国公私病院連盟では、以下の「会長談話」を公表しましたのでお知らせします。

会長談話

全国公私病院連盟
会長 邊見公雄

財政審にもの申す

先日、財政制度等審議会が「4月診療報酬改定はマイナス改定以外にない」と。一瞬、目と耳を疑った。今までずっと、「阿保のひとつ覚え」の如くマイナス改定、マイナス改定と言っていたが、コロナ禍で生命を懸けて患者を救った医療者へのボーナス的に今回に限りプラスと言うだろうと信じてきた。能天気な委員は誰もコロナ禍の病院ICUや保健所の現場を見ていないのでは？

元来この委員は財界主流で、御用学者も居る、一発当てたベンチャー企業トップなどで、パンデミックを切り抜けてきた京や浪速の老舗の主人は零。医療界からは誰も、小生の如きガス抜き役もいない。医療や教育をマイナス要因、負債と考えている効率至上主義や新自由主義者が多い。岸田首相の分配重視、新しい資本主義の観点からも委員を総入れ替えして欲しい。トランプ（掛詞）の様に。

首相は、看護師4,000円/月、介護従事者は9,000円/月の給料アップを打ち出した。診療報酬や介護報酬が上がらないと、天からお金は降ってこない。もしマイナス改定を受け入れれば、第6波へ向けての医療界は士気喪失、離職やサボタージュ（心的だけでも）が続出するのを危惧している。首相のリーダーシップを期待したい。